

参入市町村名	宮城県大崎市(旧松山町)	
法人等名(業態名)	株式会社一ノ蔵(酒造業)	
参入の種別	「醸華邑」(じょうかむら)構想・水田農業活性化特区	
農業部門の概要	栽培作物	米、大豆、ソバ、野菜
	経営規模	7.5ha
	雇用者数	4人
地域の概要	<p>【地域の農業の特徴】 古川市を中心に1市6町が合併した大崎市の中心部及び旧松山町を含む東部一帯は「大崎耕土」と呼ばれ、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」などの米どころとして有名であり、近年では大豆の生産でも大きなシェアを占めている。</p> <p>【農業構造】 旧松山町農家数は平成17年492戸と10年間で62%に減少。旧松山町経営農家人口は平成17年1896人と10年間で69%に減少。旧松山町経営耕地面積は平成17年895haと5年間で85%に減少し耕作放棄地がおおよそ15%増加。</p>	
参入の動機、きっかけ、参入の経過など	<p>高品質な酒米確保の為のリスク負担と栽培技術の習得を自社で行い、地域主産業である農業を守り育てる事を目的に平成16年自社内に農業部門「農社」を立ち上げ農業参入。一ノ蔵は「人と自然と伝統を大切にし、醸造発酵の技術を活用して、安全で豊かな生活を提案し、地域に貢献する事こそ企業の使命である」という経営理念から、農業の関わりを通じて地域に貢献する事を目指し営農を行っている。</p> <p>農業参入に至った経緯は、平成5年の大凶作時良質な酒米が確保できず、酒造りは生産調整を余儀なくされた事が挙げられる。その折、有機農業に取り組む農家は冷害の影響無く収量も平年並みにある事を知る。また弊社の酒造りにおいて、有機米を使用し酒造りをすると醪の活性や麴づくりに良い事も蔵人より報告があり、その点でも有機米による酒造りの可能性を感じた。一方で地元松山地域の農業従事者の高齢化及び耕作放棄地の増加も顕在化。この様な状況から特区による農業参入に至る。</p>	
農業経営(農業事業)の内容	参入当初平成17年の経営面積は1.2ha、現在は7.5haに拡大。平成26年度から自社敷地内に6次産業化に向け農産加工施設を建設。経営方針である6次産業化推進を図るべく、商品づくりを推進し現在農産加工品を県内で販売中。	
農産物の販売状況	清酒の醸造用に全量使用。転作作物のソバは、地元直営店の「酒ミュージアム華の蔵」にて“地そば”として提供。大豆、その他野菜類は農産加工の原材料として活用している。	
農業参入にあたって苦労したこと	当初は、きちんと農業をしてくれるのかと心配そうな顔で見られることが多かったが、従業員が畔の草取りなどに真剣に取り組む姿を見て、徐々に取り組みが理解されるようになった。	

現在の課題、問題点	農業部門としての採算性が課題。農地の確保と集積による経営効率を上げたい。
農業参入で良かったと思う点	原料の見える商品づくりを行ってきたことが、消費者側の理解促進と、社員が農業に関わる事により新たな価値感を見出す事につながってきている。
今後の展開方向、行政や関係機関に望むこと	地域農業の担い手として特区による農業参入に至るが、耕作放棄地や農業従事者高齢化に伴う企業としての役割が活かされていない。